

2014年3月3日

株式会社 神戸デジタル・ラボ

国立大学法人 京都大学大学院情報学研究所

## KDL、京大らと開発した物事のつながりを定量化する基盤システム「関係性エンジン」の提供を開始

### ―蓄積されたあらゆるデータを活用 平成26年度中にサービス化目指す―

株式会社 神戸デジタル・ラボ（代表取締役：永吉一郎、本社：神戸市、以下 KDL）は、京都大学大学院情報学研究所 新熊亮一准教授（以下、新熊准教授）らとともに研究開発を進めている「関係性技術（※1）」のサービス化に向け、本技術を具現化した「関係性エンジン」を開発、モバイルソーシャライズシステムフォーラム（※2）の参加団体向けにライセンス契約による提供を開始しました。企業／団体は「関係性エンジン」を導入することで、既に蓄積されているデータを最大限に利用したサービスの開発に着手できます。

#### 開発の背景

社会におけるデータ量は日々増大し、膨大な情報から迅速に情報を取り出すための手法が研究されています。しかし現在蓄積されているデータの中で活用されているものはごく一部であり、また活用する場合においても、目的やツールに応じて利用できない部分を除去しなくてはなりません。現在は利用されていないこれらのデータにも人の行動やモノの流通が多様な形で埋め込まれていると考えられますが、現状では蓄積はされているが利用されていないデータが大量に存在しています。また、従来の技術で有益な情報を取り出すためにはデータマイニングやマーケティングなどの高度なスキルと知識が必要です。

これらの課題に対して、KDL は 2010 年より新熊准教授らとともに、あらゆるデータから価値のある情報を自動的に取捨選択し活用する技術として「関係性技術」の研究に取り組んで参りました。

#### 「関係性エンジン」とは

「関係性エンジン」とは、様々なデータを持つ各要素間の接点から、つながりの強さとその変化を定量化する基盤システムです。関係性エンジンの最大の特徴は、断続的なデータや人が解釈できないデータを含むあらゆるデータを、関係性エンジンが定める唯一のフォーマットに整形するだけで活用できることです。これにより、データの緻密な加工が不要となるだけでなく、これまで活用してこなかった様々なデータを融合するなど、データを余すことなく利用できます。評価には、要素間（例：人と人、商品と人、場所と商品など）の近さ／遠さや類似度など直観的で理解しやすい指標を用いるため、情報を扱う人のスキルに依存せず誰でも関係性エンジンを使ったサービス開発が行えます。また、従来の統計処理とは異なり、つながりを辿ることで過去には接点がなかったが潜在的に近いものなど新たな関係性をも発見できます。

#### 今後の展開

「関係性エンジン」は、モバイルソーシャライズシステムフォーラム内で、参加団体に対して有償ライセンス契約により提供いたします。今後は引き続き研究開発を進め、「関係性エンジン」を高機能化するとともに、平成26年度中の導入目標を5件に定め、フォーラム参加団体の導入を通じて平成26年度中にサービス化の実現を目指します。

#### モバイルソーシャライズシステム公式 Web サイト

<http://mssf.jp/>

#### ※1 関係性技術・・・

さまざまなデータベースや端末に蓄積されている多様なデータを元に、人・モノ・場所などの関係性を定量化し、距離感、一般性、信頼性などからモノゴトの成長性や関心度を予測する技術。新熊准教授が発案し、KDLなどが開発している。2013年5月には、モノの成長性を予測する実験で80%の的中を実証した。

#### ※2 モバイルソーシャライズシステムフォーラム（MSSF）・・・

KDLが新熊准教授と共に主宰する、関係性技術の研究成果の産業応用を目的とした産業化推進フォーラム。2011年9月30日に設立。現在36企業／団体がマーケティングや予防保全などの用途で関係性技術のサービス化に取り組んでいる。

報道関係者各位

プレスリリース

**【問い合わせ先】**

株式会社 神戸デジタル・ラボ (<http://www.kdl.co.jp/>)

先端技術開発事業部 事業部長 山口和泰

TEL: 078-327-2280

メール: [info@kdl.co.jp](mailto:info@kdl.co.jp)

国立大学法人 京都大学 大学院情報学研究科 (<http://cube.kuee.kyoto-u.ac.jp/~shinkuma/>)

新熊亮一 准教授

TEL: 075-753-3556

メール: [shinkuma@i.kyoto-u.ac.jp](mailto:shinkuma@i.kyoto-u.ac.jp)